

新しいリハビリ体験 ～5つの新機器が仲間入り～

このたび、豊川さくら病院では、
新たに5つのリハビリ機器を導入しました。
新しい機器の活用により
患者様一人ひとりの状態に合わせたリハビリの幅がさらに広がり、
より効果的な支援が可能となりましたので、ご紹介いたします。



ドライブシミュレーター

安全な運転再開をサポートするシミュレーション評価

脳卒中後に「また運転したい」という思いを持つ方を、安全にサポートするためにHONDA製ドライブシミュレーターを導入しています。

脳卒中の後遺症では、手足の動きだけでなく、注意力の低下や判断の遅れが運転の不安要素となることがあります。

シミュレーターでは、実際車に乗る前に安全な環境で反応速度や判断力を客観的に確認できます。

その結果をもとに、どこに注意すれば安全に運転できるかを分析し、個々に合わせたリハビリへつなげます。



mediVRカグラ

VRゲームで楽しくリハビリ！最新機器「mediVRカグラ」

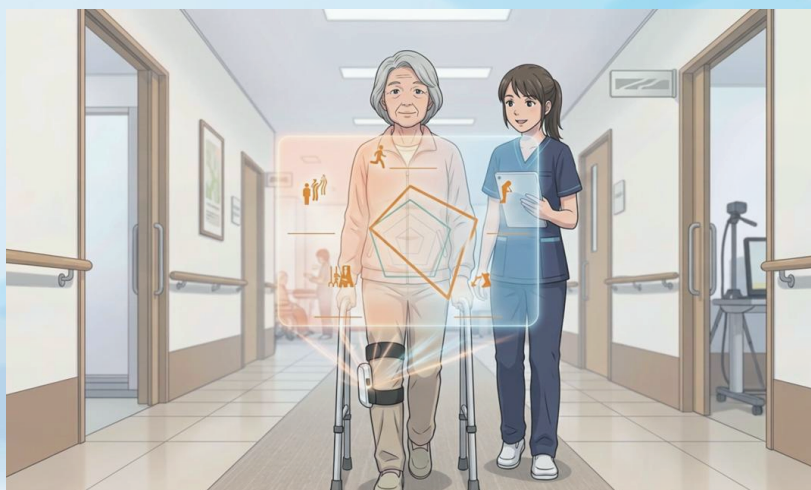
最先端のVR技術を活用したリハビリ機器「mediVRカグラ」は、ゲーム感覚で楽しみながら脳と身体の機能回復を促す装置です。専用ゴーグルとコントローラーを使い、画面に現れる的に手で触れる動作を繰り返します。座ったまま安全に行えるため、脳卒中、パーキンソン病、大腿骨近位部骨折など幅広い方に利用できます。音・光・振動の同時フィードバックが脳を刺激し、神経回路の回復を後押しします。国内外で医学賞を受賞した信頼性の高い機器です。



WalkCare

「歩き方」が教えてくれる身体のサイン！歩行分析システム導入

AIを活用した最新の歩行分析システム「WalkCare」は、足に小型センサーを装着し、10メートル歩くだけで歩行の「なめらかさ」「推進力」「バランス」などを数値化します。歩き方の特徴を客観的に把握することで、より効果的なリハビリ計画の立案に役立ちます。2025年の大阪・関西万博にも出展された注目の機器です。



バイタルスティム

電気刺激×専門家のリハビリで「飲み込む力」をサポート！

「食事中にむせる」
「飲み込みにくい」
といったお悩みは、
周囲の筋力低下が原因の一つです。
バイタルスティムは、喉の筋肉に
微弱な電気刺激を与えながら、
リハビリスタッフと一緒に
飲み込みの練習を行うことで、
嚥下機能の改善を目指す機器です。
お口や喉の動きをよりスムーズに
活性化させることが期待できます。



リハまる

楽しく脳を鍛える！最新MR機器「リハまる」

最新のMR（複合現実）技術を活用した「リハまる」です。
リハまるは、専用ゴーグルで見る現実の風景の中に、
デジタルのゲームが現れる画期的な仕組みです。
脳卒中後の「注意力の低下」や、
認知症による「判断力の衰え」に対し、
楽しく脳を鍛えることができます。
空間に浮かぶ的を順番に叩く動作は、脳の活性化だけでなく
身体のバランス感覚も同時に養います。
座ったままでも安全に行えるため、
体力に自信がない方でも安心してリハビリに取り組みます。







ちょっと解説！
MRってなに？



MR (Mixed Reality) = 複合現実
現実とデジタルが完全に融合！

私たちは、最先端機器の活用だけでなく、
セラピストの専門性向上にも全力を注ぎ、
患者様一人ひとりに合わせた
「質の高いリハビリテーション」の提供に努めてまいります。
—豊川さくら病院 リハビリテーション部

機器名	主な目的	特に向いている方	特徴
ドライブシミュレーター 	運転操作・判断の評価	運転再開を考えている方	仮想環境で安全に運転を模擬・評価
mediVRかぐら 	姿勢バランス・運動制御・認知機能の改善	脳卒中やパーキンソン病など幅広い方	座位で安全に、楽しくVR訓練
WalkCare 	歩行状態の分析・評価	歩行のふらつきや不安がある方	短時間歩くだけでAIが歩行データを解析
バイタルスティム 	嚥下機能の改善	飲み込みが弱い方	電気刺激で嚥下筋を活性化
リハまる	認知機能・注意力・身体機能の改善	注意力や判断力が低下した方	MR/VRによる楽しいトレーニング

■用語解説

VR (Virtual Reality) = 仮想現実

すべてがデジタルで作られた“仮想の世界”に入り込む技術です。現実とは切り離された空間で、安全に集中してトレーニングを行うことができます。

AI (Artificial Intelligence) = 人工知能

大量のデータを学習し、動作の分析や予測を行う技術です。リハビリでは、歩行の特徴を数値化したり、最適な課題設定に活用されています。



私たちは、「ありがとう」を贈り、「ありがとう」を頂き、
「ありがとう」であふれる空間を作り続けます。